



東北 復興日記

まだまだ



ふたば未来学園

高等学校2年

三橋美紀さん

▶▶▶ 244

私は福島県の風評被害対策を考

え、福島の今を伝えるツアーの企画や自分の体験を伝える語り部活動をしています。これは、小学校四年の時に体験した東日本大震災がきっかけです。

今年一月に福島県広野町で行われた「ふくしま学(楽)会」で、

「復興」の舞台で輝く場を

自分たちの活動について発表しました。私が会場で投げかけたのは、「私たちは震災の経験を踏まえて何を伝えたいのか」というものでした。これは自分自身の挫折から出た問いです。

私たちは、県外の方々に福島の現状を知ってもらうために「震災後の福島を伝えるツアー」を企画しようとしていました。しかし、思いついた内容は被災地のめぼしいスポットを巡るだけ。既存の観光ツアーと変わらないものでした。被災地の現状を伝えるだけで活動したつもりになっていたら気づきました。

「自分たちは何をすべきなのか」という行き詰まりから抜け出すきっかけとなったのが学会でし

た。「ふくしまから世界へ伝えたいこと」というテーマで自分の思いを伝えたところ、会場の大学教授や地域の方々から「あなたたちの強みは、高校生であること、そして実体験のあること」とアドバイスを受けました。

この経験から「本当に私が伝えたいことは何か」「自分だからこぞでできることは何か」ということを、より深く考えるようになりました。

学会後は、「いわきおてんとS UN企業組合」さんが企画した

「エネルギーの上流と下流を繋ぐスタディツアー」に参加し、聖心女子大から参加した方々に避難生活の経験を話すと、「実際に現地に足を運んでみるのが大事だと分かった」という感想が聞け、手応えを感じました。今後、さらに実践を重ねながら、探究活動を続けていきたいと思えます。

これからも福島の未来を考え続け、高校生が「復興」という舞台で輝ける場をつくっていきたくて

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。